

金融システム研究フォーラム 概要

第4回 2009.04.10 (金)

次回会合を4月13日と予定したが、3月23日にアメリカ財務省から公表されたいわゆる Geithner Plan が大きな話題となったことに鑑み、急遽、「Geithner Plan について」を素材とする会合を企画した。

日銀の宮田氏に制度の概要等の紹介をお願いし、Barclays Global Investors の福原正大氏に“legacy assets”に投資する側を中心とする「現場」の雰囲気・評価の紹介等をお願いし、さらに Plan の内容であるシステムの評価等を松島・倉澤・柳川3氏にお願いして、10日の会合を開催した。

細部について未確定の部分があること、これまでに採用された一連の「政策」や進行中のストレス・テストなどとも密接に関連すること、議会との関係を含む各種の制約条件下での選択であることなどの事情から、意見交換・議論は交錯・難航した。とはいえ、Plan の内容・実質・目的・予想される効果と影響・その後の展開などに関する紹介・意見交換・議論等を通じ、Plan を中心とする一連の政策に関して、各メンバーは大いに理解を深めることができた。同時に、評価・見通しに関して議論が沸騰した。

Geithner Plan (Public Private Investment Program, PPIP)の概要については、アメリカ財務省 (www.ustreas.gov) のプレスリリース(3/23)から取得可能。また、view white paper, FAQ 等の詳細については、政府が一連の危機対応の内容を周知するために開設した HP、<http://financialstability.gov> (財務省のプレスリリースにリンクがある)を参照されたい。